

現代社会の歩みと私たちの生活

東京都広尾中学校 関 基雄

1 はじめに

この第1章はいよいよ中学校三年生になり、はじめて学ぶ公民の学習のスタートとなるところである。1、2年生で学習してきた地理や歴史は小学校でも学習の経験がある。しかし、公民は多くの生徒にとって、「公民」という言葉の意味もわからない不思議な科目といえよう。しかし、中学校3年生になり進路についての意識も高まりはじめ、公民の学習にも不安とともに大きな期待ももっていることも事実である。

新学習指導要領でも、この単元の取り扱いについて、地理的分野歴史的分野との関連を図り、調査や討論など多様な学習活動を取り入れたり、適切な課題を設けて行う学習を取り入れるなどの工夫を行うことを求めている。生徒が興味関心をもつような公民の学習になるポイントの一つに生徒の身近な生活にかかわらせることがあげられる。この単元でも高度経済成長から現在の変化を自分の生活とかかわるものだという実感をもたせたい。そこで、ここでは身近な人への聞き取り調査を取り入れた実践を報告したい。

2 指導の流れ

この単元では、現在の日本の出発点ともいえる高度経済成長期と現在を比べて現在の日本の社会の特徴をつかむことをねらいとしている。高度経済成長期を経て日本がどう変貌してきたのかをつかむことで、現代日本の社会の特徴を捉えることができる。その際、高度経済成長期の生活のようすを聞き取り調査をすることで教科書などで書かれているよりもより具体的なようすを知ることができ、関心をもつようになる。しかし、1、2年の学習でもすでに調査や発表をやってきている生徒には、あまり新鮮味が感じられないかもしれない。ここでは、仮説を立てた調査ということに取り組みさせてみたい。

高度経済成長の概略を学んで聞き取り調査を行う前に、「今ではあたりまえになっているものでも高度経済成長期が始まった昭和30年代はちがはずだ。興味や関心があることがらについてきつとちがうだろうという仮説（予想）を立ててみよう」と指示を出して仮説を立てさせてみたい。こうすることで焦点の定まった聞き取り調査になる。こうしたことをふまえて次のような指導計画を立ててみた。



指 導 計 画

	学習内容	おもな学習活動	教師の支援と留意点	評 価
1	高度経済成長のイメージをもつ	<ul style="list-style-type: none"> 資料などから現在の日本の出発点が高度経済成長期にあることを読み取る。 ビデオなどの資料から高度経済成長とはどのようなものであったのか概要をつかむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 当時の生活がわかる写真またはビデオなどを用意する。 生徒が課題意識をもてるように、自分の生活体験などもふまえて具体的な話をする。 	<p>関心・意欲 ビデオや資料等を読み取ろうとする。</p> <p>資料活用 高度経済成長の概要がつかめる。</p>
2	現在との違いの予想をたてる	<ul style="list-style-type: none"> 今はあたりまえとなっているが昭和30年から40年代ではあたりまえではなかったと思われるものを探し、班のテーマとして聞き取り調査を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の生活を振り返らせて、遊びについてとか買い物についてなど実際の生活体験の中で思いつく変化がだせるように各班にアドバイスをする。 	<p>関心・意欲 班のテーマを考えようとしている。</p> <p>思考・判断 適切な仮説を立てることができる。</p>
	聞き取り調査	<ul style="list-style-type: none"> あらかじめ決めたテーマを中心に聞き取り調査を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 各班で決めたテーマだけでなくそのほかにも変化がないか話を聞くようにアドバイスする。 	<p>関心・意欲 積極的に聞き取り調査をしようとしている。</p>
3	現在と高度経済成長期との違いの把握	<ul style="list-style-type: none"> それぞれが聞き取りを行った結果を班の中で報告し、結果をまとめる 	<ul style="list-style-type: none"> 聞き取り調査の結果をまとさせるが、班のテーマ以外にも変化がわかったものも書き入れるよう指示する。 	<p>関心・意欲 聞き取り調査の結果を積極的にまとめようとしている。</p>
4	現在と高度経済成長期との違いの把握	<ul style="list-style-type: none"> 各班でまとめた結果を発表する。 活動についての自己評価、相互評価を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> あらかじめ相互評価をすることを伝えておく。 ワークシートに他の班の発表内容を書き入れさせる。 	<p>関心・意欲 積極的に発表をしたり、他の班の発表を聞こうとしている。</p> <p>資料活用 聞き取り調査の結果など根拠を明確にして説明している。</p> <p>知識・理解 高度経済成長のようすを正しく理解している。</p>
5	現代の日本の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 各班の発表をもとに現代の日本にはどんな特徴があるのかをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 各班の発表から情報化・国際化などの現代日本の特徴につながるようにまとめる。 	<p>思考・判断 発表内容から現代日本の特徴をまとめることができる。</p>

3 評価について

この単元は公民学習の導入にあたるので、調査の結果をうまくまとめられたというよりも興味や関心をもって課題を設定し、意欲的に聞き取り調査を行ったのかという点を重視した評価を行いたい。そこで、評価の方法と観点別の評価規準例を示しておきたい。

興味・関心・態度

- ・聞き取り調査の課題を設定するために積極的に話し合いに参加して協力しているか。
- ・何人かの人に聞き取りを行ったり、なるべく具体的な話を聞こうとしているか。
- ・聞き取り調査の結果を班の中でわかりやすく報告し、発表の準備に積極的に協力しているか。

評価方法

ワークシート、活動状況の観察、自己評価、相互評価

社会的な思考・判断

- ・適切な仮説を立てた課題設定ができているか。

テレビ時代の到来

特徴的な点

- ・白黒テレビから**カラテレビ**になった。
- ・電源もなくても、画面がわかるようになった。

※ 巨人・大豊・三好徳田 紹介 山崎 明彦 山崎 明彦

※ 現代の日本を比較

◎ 変った点

- ・ほとんどの家にテレビがある。
- ・カラーが一般的になった。
- ・リモコンが生まれた。
- ・音量が小さくなった。

◎ 変わらな点

- ・テレビを見るのが楽しくていい。
- ・野球中継や情報番組が人気。

現代の日本

特色

※ テレビから、見ることができるようになった。(→テレビの普及が原因...)

※ **電気機器** が普及して、生活が豊かになった。

※ ほとんどの家に、テレビがある。(カラー)

※ 学力が低下している。

※ テレビは夢中になって、学力が低下している。

※ 自宅での生活時間が増えたり、その結果、家族や友人、近所の人など、人と人とのコミュニケーションが減少している。

- ・調査結果をもとに適切な結論を導きだすことができているか。

評価方法

ワークシート、活動状況の観察

資料活用の技能・表現

- ・発表のときに聞き取り調査の結果などの根拠を示して発表することができているか。

評価方法

ワークシート、発表の観察

知識・理解

- ・調査結果や他の班の発表を聞いて、生活の向上や情報化、国際化、少子高齢化などの現在の社会の特色をとらえることができているか。

評価方法

ワークシート、活動状況の観察

また、この単元は生徒の主体的な学習の学び方を学ぶこともねらいとしているので、それぞれの活動を振り返る自己評価や模範となるような活動を認める相互評価にも力を入れたい。

3年公民ワークシート NO. 2
3年()組()番() ()班

- 今回の授業の方向
さて、公民に入り最初の項目として、「現代日本の歩みと私たちの生活」について学習します。ここでは、公民的分野の導入の項目として、歴史的分野の最後に学習した現代史の項目とつなげた学習を考えています。すなわち、現代社会について学習する公民的分野の出発点として、現代の日本の特色や課題を自分たちなりにつかむことを目的としています。あくまで、先生が教えた特色や課題を覚えるのではなく、公民的分野の学習の出発点として、自分たちなりに社会像を見つけてください。
しかし、「現代の日本の特色」を自分たちなりにつかむといっても、抽象的のわりなくと思います。そこで、今回は高度成長期という、戦後の日本の大きな転換期をつくった時代と比較することにより、「現代の日本の特色」を浮かび上げさせたいと考えました。そこで、この時代を生きた(みんなと同じように青春を過ごした)方々からの聞き取り調査をお願いして、考えを深めていきたいと思います。
- 聞き取り調査(アンケート)項目について
(1) なるべく、身近な生活とむすびつけて答えもらえるような質問内容を考えましょう。
(2) 質問項目のポイントになると考えられる点をあげておきますから、参考にしてみましょう。
例 ア 当時の国民生活(衣食住や娯楽など)の具体的なようすを質問する。
イ 当時の経済(産業や科学技術、企業や労働者など)の動きや実態について質問する。
ウ 当時の人々の考え方(生活意識、仕事への意識、余暇や休日に対する意識、文化や流行への意識など)について質問する。
- 聞き取り調査の注意事項について
(1) 家庭の人、地域の人、親戚の人など身近な人に、各自で聞き取りをしてください。
(2) 高度経済成長期(1950年代後半～1970年代前半)の生活体験のある方に、聞き取りをしてください。
(3) 聞き取りをお願いする方には、きちんと目的(高度経済成長期と現在の社会との比較。検討を通して、現代の日本の特色を考える)を伝え、礼儀をわきまえてください。
(4) 聞き取り調査ですから、回答は自分たちで記録してください。聞き取り調査用紙だけを渡して、書いてもらうようなことはやめてください。
(5) 聞き取りに協力していただいた方にはきちんとお礼を言います。
(6) 次の授業(もしくは、指定した授業)で、聞き取り結果をグループごとにまとめます。時間がきつい場合もありますが、責任をもって決まった時間までに、聞き取りを行ってください。
- 自分の聞き取り項目